

短歌

小島経彦

萩市
(1891～1984)



【著作】

歌集『晩潮』（昭和36・小島経彦氏古希記念会）
歌集『寒雲雀』（昭和51）
歌集『萩』（昭和54）

【閲覧情報】 萩市立図書館

明治二十四年（一八九一）二月一日 小島政方の長男として生まれる。十八歳より三十八年間小学校教員として勤続。三十三歳にて結婚。五人の子に恵まれるが、うち三人が早世。特に二十四歳の長女を失った時はそのショックで難聴となる。

作歌を始めたのは十六歳の頃、明治三十九年（一九〇六）『文学世界』の短歌欄に投稿、選者窪田空穂との師弟関係は子息章一郎へと繋がる。昭和二年（一九二七）『毎日新聞』短歌欄が全国的な規模になった時、再び空穂の選を受けるようになった。

昭和三十一年（一九八八）、三十四年（一九〇一）と二度毎日歌壇賞を受ける。家族的には恵まれなかったが、多くの知人諸友教え子に慕われ、その温厚な人柄は実に品よく、またユーモアを解された。

昭和三十六年（一九〇三）には古稀を祝して、篤志により第一歌集『晩潮』が刊行された。序に窪田空穂は、「小島君の歌の取材は広く、強く鋭く感を惹いた事物はすべて歌としようとする趣がある。調べの力によって、その捉えたものをすべて生かし独自の優秀な世界を構成している。」と評している。

昭和四十二年（一九六七）地元萩に「黎明短歌会」を発足、多くの後継者を育てる。主宰窪田章一郎の歌誌『まひる野』の重鎮として、その名を残す。作歌活動は実に七十年余りに及ぶ。

昭和四十六年（一九七二）八十歳を祝し教え子田中助一、西島愛三等の発起に拠って萩市椿東小学校の校庭に歌碑が建立された。

昭和五十年（一九七五）に十四年ぶりに第二歌集『寒雲雀』を上梓。序文に窪田章一郎は『まひる野』誌に「おそらく一度の休詠もなく誌上で活躍し、今日に及んでいる。文学の縁は我々二代にわたる稀しい歌人であり、わたくしにとっては明らかに大先輩である。空穂とは直接に語りあう機会の無かったのは、どのように残念なことであつたらう。」と記す。

章一郎氏とは、昭和四十七年（一九七二）十一月に全真会病院にて対面をし「小島さんは郷土の人々にいかに大切にされている人であるかと言ふことを知る。」と言わしめている。

九十歳のおり第三歌集『萩』を『まひる野』より刊行。十数年に及ぶ病院生活であったが、終生その人柄は温厚であった。

（文・松浦ヤス子）



歌集『萩』『寒雲雀』『晩潮』



歌碑（萩市立椿東小学校）

一本のこる大むくの樹よこの下に
明治の少年ら大志かたりし

小島経彦 年譜

（提供・松浦ヤス子）

2月1日、山口県萩市中の倉にて父小島政方の長男として生まれる。

椿郷東分村（現萩市）高等小学校高等科卒業、文学誌『文章世界』の短歌欄（選者窪田空穂）に投稿を始める。

第一明倫尋常小学校代用教員となる。

3月2日、尋常小学校準教員免許取得。

11月18日、尋常小学校本科正教員免許取得。

結婚。

3月31日、椿東尋常高等小学校訓導。

3月31日、依願免本職。

4月、萩市大島小学校助教。

終戦後二年間萩市櫃島分校に奉職。

毎日新聞社「毎日歌壇賞」を受賞する。（選 窪田空穂）

毎日新聞社「毎日歌壇賞」を受賞、2月短歌誌『まひる野』（窪田空穂長男章一郎氏主宰）に入会。

古稀を祝して第一歌集『晩潮』上梓する。序文窪田空穂。
地元萩に短歌誌『黎明短歌会』を発足。（没後、岡 清熊氏に引き継がれ平成9年終刊）。

萩市椿東小学校に教え子田中助一、西島愛三等有志に拠り歌碑を建立、この年6月に窪田空穂没。（九十一歳）。

11月1日、『まひる野』主宰窪田章一郎氏来萩、全真会病院内にて初対面果たす。

8月、第二歌集『寒雲雀』を刊行。序・窪田章一郎氏。

昭和37年七十一歳の作品「西の浜五月の海の真浄さにかがまりて撫でぬ其の海の肌を」この一首をあげて、『まひる野』誌上に編集員橋本喜典氏が称賛。

8月1日『まひる野』編集員代表橋本喜典氏、『まひる野』同人美祢市の杉本、下関市の野沢氏を伴い来萩、市民館和室にて歌会を開く。

10月15日、窪田章一郎氏、『まひる野』同人杉本氏、桑原氏、野沢氏そろいて来萩「小林亭」にて歌会を開く。支部会員四十数名出席。

8月23日より秋吉台観光ホテルにて第二十七回『まひる野』全国大会が開催されるが欠席、終了後多くの会員と病室で対面する。

12月、第三歌集『萩』を『まひる野』の尽力に拠って刊行、跋文窪田章一郎氏。
2月17日、全真会病院にて老衰に拠り死去。

一本のこる大むくの樹よ
この下に
明治の少年ら大志かたりし
（第一歌集『晩潮』より）

西の浜五月の海の真浄さに
かがまりて撫でぬ
その海の肌を
（第二歌集『寒雲雀』より）

この脈搏八十七年経しものと
思えば古き器のごとし
（第二歌集『萩』より）

明治24（一八九一）年	明治39（一九〇六）年	明治41（一九〇八）年	明治42（一九〇九）年	大正8（一九一九）年	大正13（一九二四）年	昭和4（一九二九）年	昭和19（一九四四）年	昭和22（一九四七）年	昭和31（一九五六）年	昭和34（一九五九）年	昭和36（一九六二）年	昭和42（一九六七）年	昭和46（一九七一）年	昭和47（一九七二）年	昭和50（一九七五）年	昭和51（一九七六）年	昭和53（一九七八）年	昭和55（一九八〇）年	昭和59（一九八四）年
一五歳	一七歳	一八歳	二八歳	三三歳	三八歳	五三歳	五六歳	六五歳	六八歳	七〇歳	七六歳	八〇歳	八一歳	八四歳	八五歳	八七歳	八九歳	九三歳	